研究主題

未来の創り手に求められる資質・能力を育成する授業づくりⅢ
－　学びの価値を見いだす授業デザインを通して　－

１　研究主題設定の理由

子供が社会の担い手として活躍する頃は，生産年齢人口の減少，グローバル化の進展，絶え間ない技術革新等により，これまで以上に将来の変化を予測することが困難な時代であることが予想される。私たちの願いは，このような複雑で予測困難な時代であっても，社会の変化に主体的に関わり，多様な他者と協働しながら課題を解決したり，新たな価値を創造したりして，よりよい社会と幸福な人生を創っていく子供，つまり，以下のような子供を育成することである。

学校教育目標「未来の創り手となる生きる力を備えた山下の子の育成」

学校教育目標の実現に向け，新しい時代に生きる子供に求められる資質・能力を身に付けさせたいと考え，平成 30 年度より「未来の創り手に求められる資質・能力を育成する授業づくり」という研究主題の下，授業実践に取り組むことにした。

２　育成を目指す「未来の創り手に求められる資質・能力」について

２年次から，「未来の創り手に求められる資質・能力」を，学校教育目標と目指す子供の姿，資質・能力の三つの柱のつながりを考えながら，本校独自に九つに整理した（表１）。

表１【「未来の創り手に求められる資質・能力」】

生きて働く知識及び技能	知識及び技能	各教科等に関する知識及び技能
未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等	論理的思考力	事物を「解釈し，把握する。」，「整理・分析する。」，「比較・分類・関係付け，推論する。」，「多面的・多角的に考える。」など論理的に思考する力
	判断・形成力	情報を精査して判断し，自分の考えを形成する力
	表　現　力	形成した自分の考えを文章や発話，動作等で表現する力
	創　造　力	新たに学んだ知識及び技能と既得の知識及び技能を関連付けて，よりよい解決方法や新たな考えを創り出す力
学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等	問題発見力	学習材等の出合いから，めあてや問題を見いだそうとする力
	見　通　す　力	既習内容を基に，解決方法を考えたり選択したりして，見通しをもとうとする力
	協　働　力	多様な他者との対話を通して，自分の考えを再構築しながら他者と共に納得解や最適解を創り出そうとする力
	振り返る力	自分の思考の過程や学び方を振り返り，学びに意味を見いだし，高まった自分の資質・能力を捉えようとする力

３　３年次の研究の方向

２年次の研究の課題から，「学びに向かう力」を涵養するための四つの視点「必要性」，「自律性」，「関係性」，「有用性」に着目した鹿児島県総合教育センターの調査研究（令和元，２年度）を基に，子供が主体的に問題解決に取り組み，学びの価値を

見いだす学習となるような授業をデザインすれば，「未来の創り手に求められる資質・能力」をよりよく身に付けていくと考え，３年次の研究主題と副主題を以下のように設定し，令和２年度から本研究に取り組むことにした。

未来の創り手に求められる資質・能力を育成する授業づくりⅢ
－ 学びの価値を見いだす授業デザインを通して －

学びの価値を見いだす子供の姿を**図２**のように捉え，このことから，「学びの価値を見いだす授業デザイン」とは，以下のように授業をデザインすることであると考えた。

子供が「自分の問い」を連続・発展しながら主体的に問題解決に取り組めるように，「必要性」，「自律性」，「関係性」，「有用性」を実感する手立てを効果的に位置付けた単元及び１単位時間の学習を設計すること

図２【学びの価値を見いだす子供の姿の例】

また，「学びの価値を見いだす授業デザイン」のために，「何ができるようになるか」，「何を学ぶか」，「どのように学ぶか」といった三つの研究内容を設定した。

【研究内容１】「育成を目指す資質・能力の再重点化」（何ができるようになるか）
【研究内容２】「学びの価値を見いだす学習内容の具体化」（何を学ぶか）
【研究内容３】「学びの価値を見いだす教師の手立て」（どのように学ぶか）

３　研究の実際

⑴　研究内容１「育成を目指す資質・能力の再重点化」（何ができるようになるか）

各教科等で目標を明確にして授業をデザインするために，１・２年次の研究の成果と課題を基に，十分に育成が図られた資質・能力と不十分なものを整理しながら，３年次に育成を目指す資質・能力の再重点化を行った。

⑵　研究内容２「学びの価値を見いだす学習内容の具体化」（何を学ぶか）

子供が学びの価値を見いだし，未来の創り手に求められる資質・能力を身に付けるために，各教科等で学習内容を具体化し，適切にその内容を学ぶことができるように，単元及び１単位時間の授業を組み立てることが大切であると考えた。そこで，次のような単元及び１単位時間の授業をデザインすることにした（**図３**）。

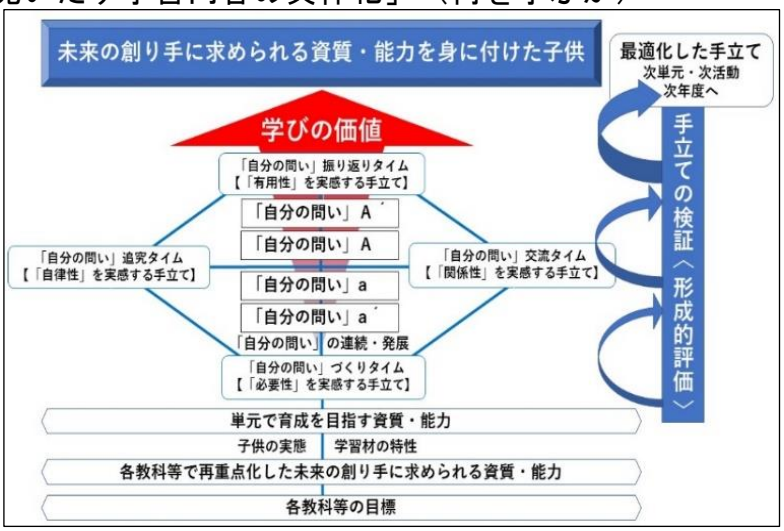


図３【学びの価値を見いだす授業デザインモデル】

⑶　研究内容３「学びの価値を見いだす教師の手立て」（どのように学ぶか）

単元及び１単位時間の授業の中で，「自分の問い」づくりタイム，「自分の問い」追究タイム，「自分の問い」交流タイム，「自分の問い」振り返りタイムを柔軟に設定し，「必要性」を実感する手立て，「自律性」を実感する手立て，「関係性」を実感する手立て，「有用性」を実感する手立てを行った（**図４**，**図５**，**図６**，**図７**）。

四つの手立てについては，授業デザインシートを活用して，検証と改善を行い授業デザインに生かせるようにした（**図８**）。

図４【学びの価値を見いだしている子供の反応と「必要性」を実感する教師の手立ての視点】

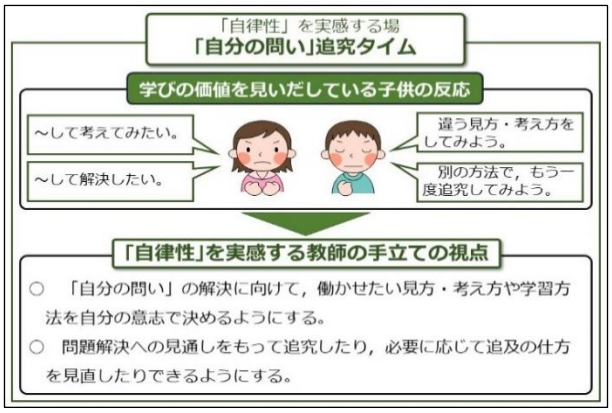
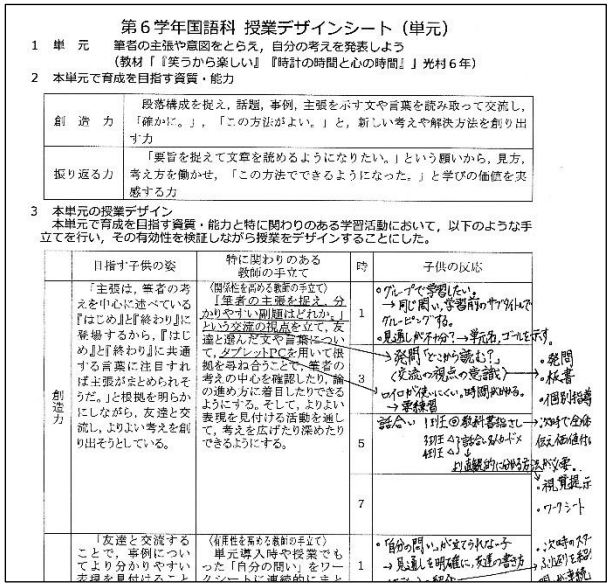


図５【学びの価値を見いだしている子供の反応と「自律性」を実感する教師の手立ての視点】

図６【学びの価値を見いだしている子供の反応と「関係性」を実感する教師の手立ての視点】

図７【目指す子供の姿と「有用性」を実感する教師の手立ての視点】



第６学年国語科　授業デザインシート（単元）

１　単　元　　筆者の主張や意図をとらえ，自分の考えを発表しよう
（教材「『笑うから楽しい』『時計の時間と心の時間』」光村６年）

２　本単元で育成を目指す資質・能力

創　造　力	段落構成を捉え，話題，事例，主張を示す文や言葉を読み取って交流し，「確かに。」，「この方法がよい。」と，新しい考えや解決方法を創り出す力
振り返る力	「要旨を捉えて文章を読めるようになりたい。」という願いから，見方，考え方を働かせ，「この方法でできるようになった。」と学びの価値を実感する力

３　本単元の授業デザイン
本単元で育成を目指す資質・能力と特に関わりのある学習活動において，以下のような手立てを行い，その有効性を検証しながら授業をデザインすることにした。

	目指す子供の姿	特に関わりのある教師の手立て	時	子供の反応
創造力	「主張は，筆者の考えを中心に述べている『はじめ』と『終わり』に秘匿するから，『はじめ』と『終わり』に共通する言葉に注目すれば主張がまとめられそうだ。」と根拠を明らかにしながら，友達と交流し，よりよい考えを創り出そうとしている。	〈関係性を高める教師の手立て〉 『筆者の主張を捉え，分かりやすい刷題はどれか。』という交流の視点を立て，友達と選んだ文や言葉について，タブレットPCを用いて根拠を尋ね合うことで，筆者の考えの中心を確認したり，論の進め方に着目したりできるようにする。そして，よりよい表現を見付ける活動を通して，考えを広げたり深めたりできるようにする。	1 3 5 7	○グループで学習したい。 →同じ問い，学習前のサークルでグループピング。 ○見通しが不十分？→単元布，ゴールを示す。 →発問「どこから読む？」 〈交流の視点の意識〉 →板書 ・個別指導 ・ロイロが使いにくい，時間がかかる。 →練習 話合い　1班を教科書指さし→30時で全体 3班を4つ話合，気付カード× 4班を4人 ↓ より意識的に効果的な方法が必要。 ・発問 ・視覚提示 ・ワークシート
	「友達と交流することで，事例についてより分かりやすい表現を見付けることで	〈有用性を高める教師の手立て〉 単元導入時や授業でもった「自分の問い」をワークシートに連続的にまと	1	・「自分の問い」が立てられない子 →見通しを明確に，学習の書き方 →次時の学習 ふり返りを絵図

図８【６年国語科授業デザインシート（単元）】